

非ステロイド性抗炎症薬と免疫チェックポイント阻害薬の有効性の関連についての後向視的研究

研究へのご協力をお願い

当院では、最新の(最善の)医療を患者さんに提供するとともに、より良い治療法や診断法などを開発するための臨床研究を行っています。患者さんに参加いただいて、治療方法や診断方法が有効であるか安全であるかを調べることを臨床研究といいます。

研究の背景

免疫チェックポイント阻害薬(ICI)は進行・再発非小細胞肺癌に対する標準治療の一つです。ICI は腫瘍に対する免疫反応を賦活化することで抗腫瘍効果を発揮するため、免疫力を抑制する副腎皮質ステロイド製剤を内服中の患者では ICI の有効性が低いことが報告されています。非ステロイド系抗炎症薬(NSAIDs)は副腎皮質ステロイドほどの免疫抑制作用は有していないものの抗炎症作用を示します。一方で ICI と NSAIDs を併用することで相乗効果が生じる可能性が示唆されています。

本研究について

この研究は、進行・再発非小細胞肺癌に対して2015年12月から2018年12月までの期間に初めて免疫チェックポイント阻害薬(オプジーボ®、キイトルーダ®、テセントリク®)を投与された患者様を対象としています。対象となる患者様の臨床所見、検査データを収集し、免疫チェックポイント阻害薬の治療効果と治療開始時の NSAIDs の使用の有無との関連を調査します。過去のデータを収集する研究のため、本研究に参加することで新たに検査・治療が追加されることはありません。

この研究で得られた情報により、免疫チェックポイント阻害薬と NSAIDs 使用との関連を明らかにすることができ、今後の治療に役立つことが期待されます。

研究の参加はあなたの自由意思を尊重します

「この研究への参加をやめたい」と思ったときにはいつでも自由に参加を拒否することができます。

プライバシーの保護について

この研究で得られた成績は、医学雑誌などに公表されることがありますが、お名前や個人的な情報は一切わからないようにいたします。また研究中のデータに関しても、外部に漏れないよう厳重に管理いたします。

お問い合わせ先について

この研究について、わからないことや、聞きたいこと、また何か心配なことがありましたら、いつでも遠慮な

く担当医師におたずねください。

また、病気やけがなどで他の治療を受けるとき、より詳細な研究の計画、研究の方法についてお知りになりたいときにも、担当医師までご連絡ください。なお、この研究に参加している他の方の個人情報や、研究の知的財産等には、お答えできない内容もありますのでご了承ください。

【研究代表者の連絡先】

独立行政法人国立病院機構 京都医療センター

〒612-8555

京都市伏見区深草向畑町 1-1

TEL:075-641-9161

研究責任者:呼吸器内科 医師 金井 修